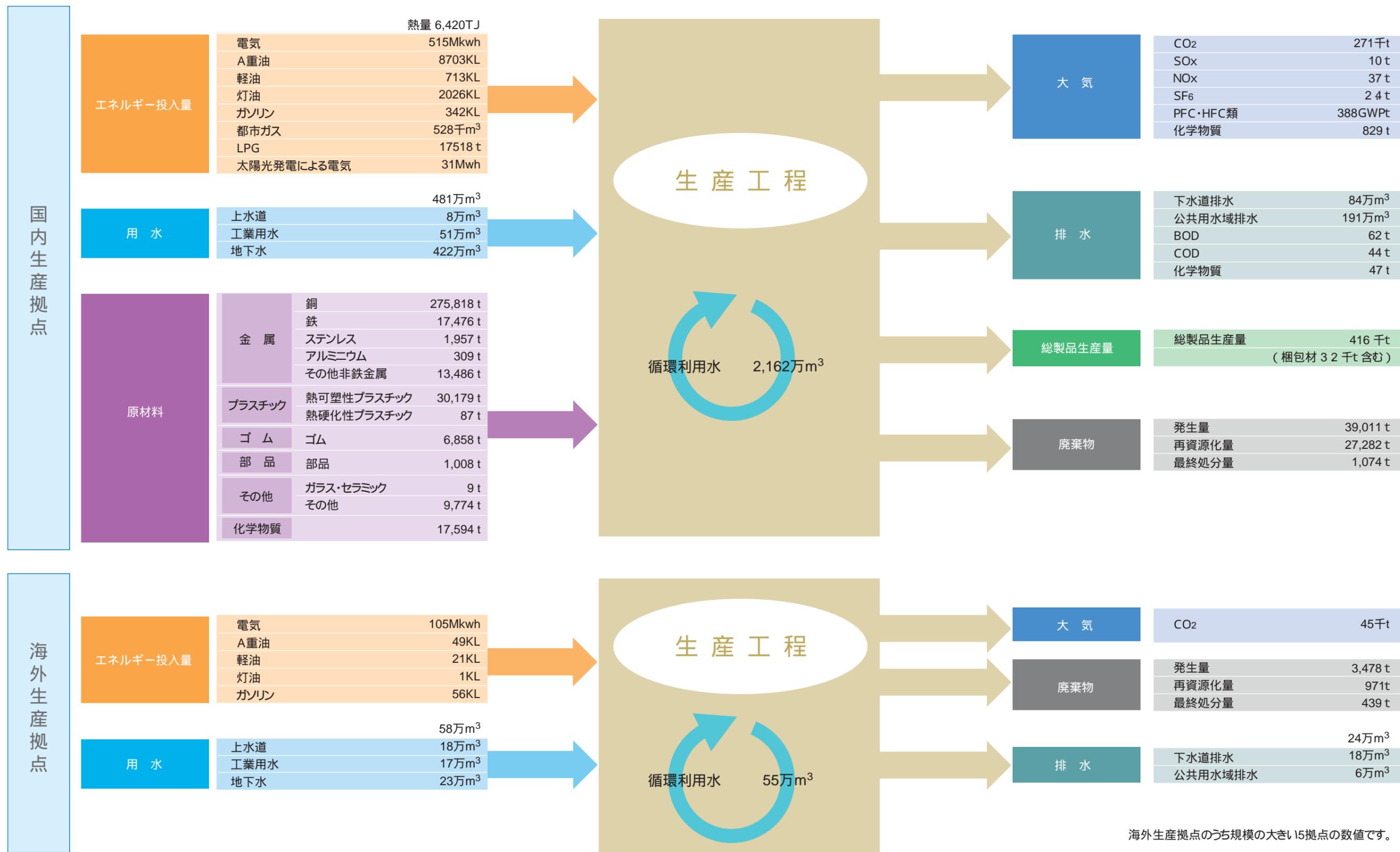




生産活動にあたり、投入したエネルギー・水資源・物質の量と製品として出荷した量・廃棄物および環境への排出量は次の通りです。





温室効果ガス排出削減を義務づけ、削減数値を評価する期間を2008年～2012年と取り決めたCOP3から早や8年余りが経ちました。2008年を目前にして温室効果ガス排出削減義務は一段と重要になっていると受け止めています。当社ではCO<sub>2</sub>についてはエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出削減を目標とし、またエネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガスについてはSF<sub>6</sub>ガスがCO<sub>2</sub>換算で99%以上を占めることからSF<sub>6</sub>ガス排出の削減を目標として推進しています。

### CO<sub>2</sub> 排出削減

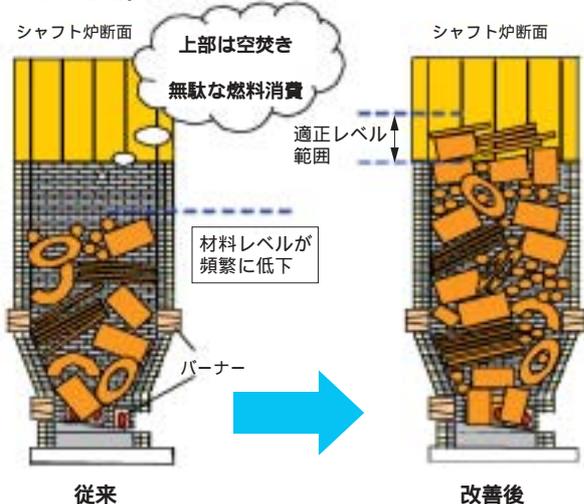
エネルギー起源CO<sub>2</sub>については排出量を2005年に1990年比3%削減、2010年に7%削減とすることを目標にして取り組んでおり、省エネルギー改善によって排出量の削減をはかってきました。

2005年度の合計CO<sub>2</sub>排出量は271千トンであり、1990年比で8.2%削減出来ました。しかしながら、前年に比べ増加の傾向が続いていることへの対策が必要と考えており、2006年度から電線工場・土浦工場において都市ガスへの燃料転換によるCO<sub>2</sub>排出量の大幅削減をはかる設備改善を進めています。

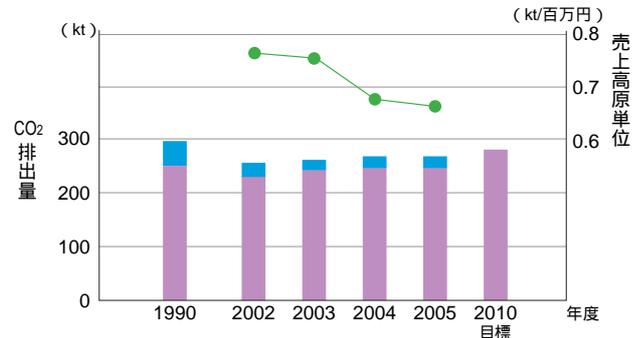
### CO<sub>2</sub>排出量削減 / 省エネルギー活動事例

#### 銅溶解炉材料充填率アップによるエネルギー効率向上

土浦工場では、銅管の素材となる銅ピレットをシャフト炉式溶解炉鑄造機で製造しています。シャフト炉はガスバーナー加熱による縦型の連続式銅溶解炉であり、溶解材料は工場内の製造工程から回収されてくる再溶解材が中心です。シャフト炉の溶解エネルギー効率は、炉内の材料充填率に大きく影響を受けます。使用する材料は形状・質量とも雑多であるため、炉への投入に際してプレス等の前処理を実施していました。近年、効率化のため前処理の省略を進めていきましたが、材料充填率の低下により溶解エネルギー効率の悪化が生じていました。この対策として、材料置き場をシャフト炉の近くに移動設置しタイミング良く材料を投入できるようにし、また材料種の組み合わせおよび投入順序の改善を実施、炉内充填率の常時適正化を図りました。その結果、溶解エネルギー効率向上により年間700トンのCO<sub>2</sub>排出削減ができました。



CO<sub>2</sub>排出量と原単位



	1990	2002	2003	2004	2005	2010 目標
■ グループ会社	42	28	29	28	30	(kt 左目盛)
■ 本体・サ内Gr会社	253	223	230	236	241	(kt 左目盛)
● 合計	295	251	259	264	271	274 (kt 左目盛)
● 売上高原単価		0.077	0.076	0.068	0.064	(kt/百万円 右目盛)

CO<sub>2</sub>排出係数は、日立グループで使用している係数を用いました。

#### 夜間電力貯蔵による効率向上

豊浦工場では、夜間に貯蔵しておいた電力を昼間に放電して購入電力の平準化をはかる蓄電池システムを導入しました。夜間は電力需要が昼間に比べ減少することから、一般的に発電所のエネルギー効率が下がり無駄なCO<sub>2</sub>が排出されると言われています。夜間の電力を貯蔵することにより実質的なCO<sub>2</sub>排出量の低減に貢献することができるとともに、落雷による瞬時電圧低下にも2,500KW分のバックアップ機能を発揮、電圧低下による設備の不安定な稼働が避けられ、不良製品発生という無駄を減らすことができました。



蓄電池システム

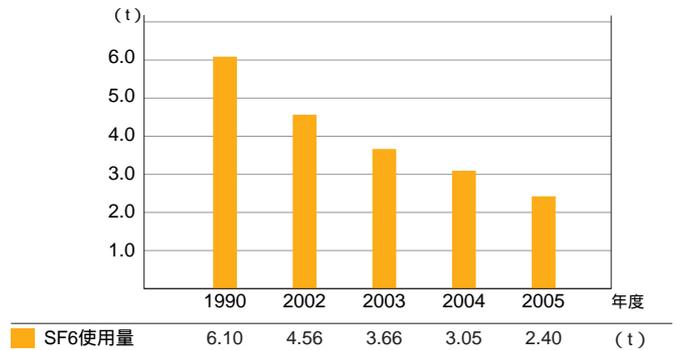
このほか、2005年度に実施した省エネルギーのための主な設備改善は次の通りです。

区分	改善事例
インバーター化	ポンプモータのインバータ化
製造能力向上	焼鈍炉積載量アップ
蒸気・エア削減対策	蒸気バルブ保温改善 水切りエアワイパをブロアエアに変更
空調設備対策	高効率空調システムに更新
加熱方式	銅ピレット電気加熱を電気・ガス加熱併用に変更
配電系統	受電設備トランスを集約し台数削減

### SF6ガス使用量削減

エネルギー起源CO2以外の温室効果ガスについては、SF6ガスおよび非エネルギー起源CO2・PFC・HFCを使用しています。05年度のSF6ガス使用量(=排出量)は240トンでありCO2換算では57,360トンになりました。一方、非エネルギー起源CO2およびPFC・HFCの排出量はCO2換算で年間388トンでした。

SF6ガス使用量



### SF6排出量削減活動事例



SF6回収装置

日立電線メクテック(株)機器事業部では、SF6ガス絶縁開閉装置に使用されるエポキシ部品の電気試験にSF6ガスを使用しています。試験の都度充填使用したSF6ガスは、試験終了後に回収し再利用していますが、回収

率を更上げて大気排出量を削減するため2003年度から設備改善を継続的に行なってきました。この成果により、2001年度に1,950kg使用していたSF6ガスを2005年度には850kgまで削減することができました。

設備改善の内容
ガス回収装置追加新設
既存回収装置のガス配管を更新
ガスリザーブタンク更新
ガス配管に乾燥剤入りタンクを追加 (ガス中水分の除去により繰返し使用期間を延長)

### 輸送時の省エネルギー

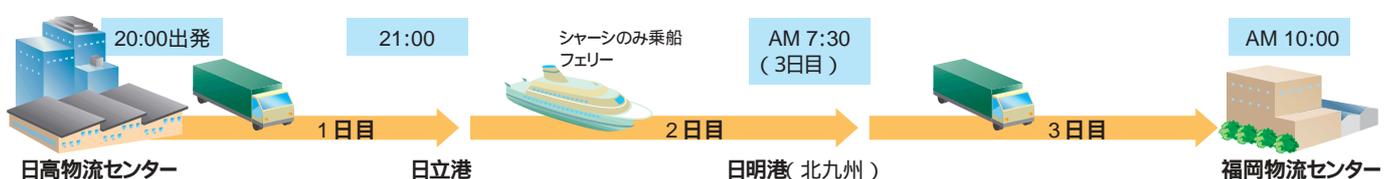
改正省エネルギー法が2006年4月より施行され、運輸の効率化・省エネルギーが更に重要になりました。当社でも従来から「モーダルシフト」には積極的に取り組んできましたが、実績は全輸送量の1%程度に過ぎない状況が続いています。お客様の指定納期を守るため、最短時間での輸送を求められる製品が多いことから実施率がなかなか向上しないのが実情です。

その中で、トラックから船舶輸送へ切り替える改善活動として茨城県日立港と北九州日明港とを結ぶフェリー便の活用を開始しました。このルートは2006年6月より新たに開設され、8月からは週3便体制に拡大される予定です。当初は、納期の問題が少ない在庫用ケーブル類を九州の物流センターに輸送するところから始め、必要に応じ営業とお客様との調整を行い、拡大をはかっていく予定です。この改善によるCO2排出量削減効果は従来のトラック便に比べ約20%削減となる予定です。

今後新たなモーダルシフトルートの開拓を推進し、積極的に活用して輸送時の省エネルギー拡大をはかっていくことが当社の責務と考えています。



船舶輸送に切り替えた製品





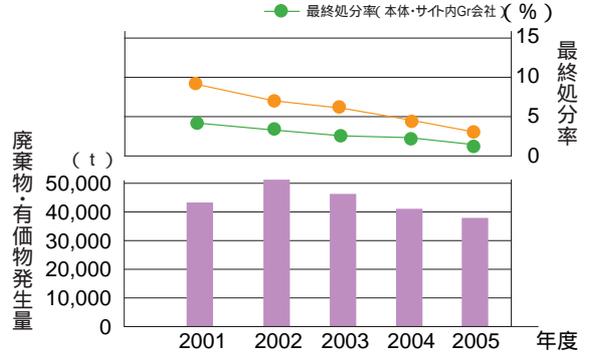
### 最終処分率削減

日立電線グループでは、廃棄物の最終処分量を2010年度に1998年度比70%以下にする目標を掲げて廃棄物削減に取り組んできました。グループ内の特徴として、生産材として使用するプラスチックやゴムの廃棄物が多く発生します。これらプラスチックやゴムの廃棄物の処理が、最終処分量を減らす取り組みの大きな部分を占めています。サーマルリサイクルや分別・再資源化技術改善によるマテリアルリサイクルの拡大により、2005年度の最終処分量は1,074トンで1998年度比27%となり、目標を大きく上回る成果をあげることができました。

そこで2005年度に、ゼロエミッションへの取り組みとして、新たに2007年度に全生産拠点で最終処分率を1%以下とすることを新目標に掲げました。2005年度のグループ全体の最終処分率実績は2.8%であり、ゼロエミッションを達成するためには、製品の生産に伴う廃棄物処分量の削減のみならず、廃棄書類や工場の食堂から出る残飯・茶殻などの生活ゴミの徹底した削減が必要です。難題ではありますが衆知を集めて目標達成に向けた活動を展開していきます。

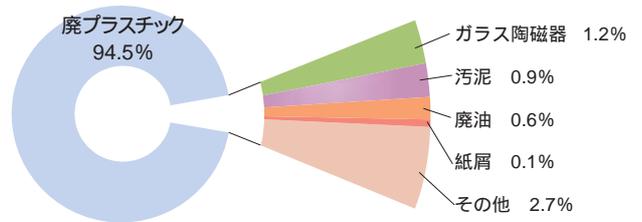
なお日立電線豊浦工場と土浦工場の2事業所では、2005年度にゼロエミッションを達成しました。

発生量・最終処分率推移



発生量	43,126	50,234	46,983	41,413	39,011 (t)	左目盛
● 全体	9.0	6.5	5.3	4.6	2.8 (%)	右目盛
● 本体・サ内Gr会社	4.4	3.1	2.9	2.9	1.8 (%)	右目盛

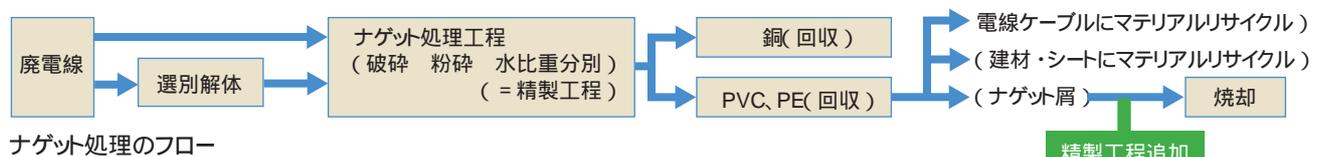
最終処分量の種類別内訳比率



### 最終処分量削減活動事例

廃電線・ケーブルのマテリアルリサイクルの方法のひとつにナゲット処理と呼ばれる方法があります。これは回収した廃電線・ケーブルを細かく砕き、砕いたものを比重の違いを利用して、銅、塩化ビニル(PVC)、ポリエチレン(PE)を選別回収してマテリアルリサイクルするものです。最後に残ったナゲット屑は最終処分対象になります。

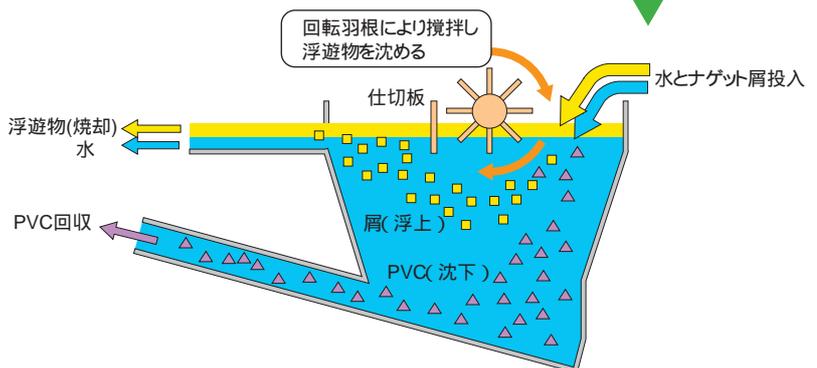
今回の取り組みは、従来の選別回収工程の後に精製工程を追加することにより、ナゲット屑中に混入している塩化ビニルの粉体を回収してマテリアルリサイクルするというもので、最終処分するナゲット屑(浮遊物)量を半減することができました。



ナゲット処理のフロー



精製装置(水とナゲット屑は右奥から投入)





### 化学物質の区分管理

日立電線グループでは、化学物質を「禁止物質」「削減物質」「管理物質」に区分して管理しています。

また新規物質を導入するときは、『化学物質購入品事前審査制度』に基づいて、MSDSならびに詳細成分情報を入手して安全性を審査し、物質を「日立電線自主管理化学物質」として登録することを義務付けて区分管理の維持に努めています。

また、登録した全ての化学物質の取扱量と排出量・移動量を『日立グループ化学物質総合管理システム(CEGNETシステム)』に登録し、データベース化して管理・監視を行っています。

### VOC排出量削減

2010年度のVOC 排出量を2000年度比64%に削減する目標を掲げ、2006年度からVOC排出量削減に取り組みます。日立電線グループでは、2005年度にはVOC32物質を扱い大気中への排出量は619トン(2000年度比84%)でした。

VOC: Volatile Organic Compounds (揮発性有機化合物)

### PRTR対象物質 取扱量・排出移動量

2005年度に取り扱った化学物質のうち、PRTR法対象物質の主なものの取扱量と排出量・移動量は下表の通りです。

物質番号	指定化学物質名	取扱量	排出量				移動量				物質番号	指定化学物質名	取扱量	排出量				移動量									
			大気	水域	下水道	廃棄物	大気	水域	下水道	廃棄物				大気	水域	下水道	廃棄物	大気	水域	下水道	廃棄物						
1	亜鉛の水溶性化合物	1.4	0.0	0.0	0.0	0.2	202	テトラヒドロメチル無水フタル酸	4.5	0.0	0.0	0.0	0.1	9	アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	8.4	0.0	0.0	0.0	1.6	204	テトラメチルチウラムジスルフィド	3.4	0.0	0.0	0.0	0.2
16	2-アミノエタノール	13.4	0.0	0.0	0.0	0.1	207	銅水溶性塩(錯塩を除く)	31.2	0.0	0.0	0.0	1.0	25	アンチモン及びその化合物	223.7	0.0	0.0	0.0	4.8	224	1,3,5-トリメチルベンゼン	2.2	1.1	0.0	0.0	1.0
29	4,4'-イソプロピリデンジフェノール【ビスフェノールA】	5.6	0.0	0.0	0.0	0.1	227	トルエン	80.9	57.9	0.0	0.0	3.9	29	4,4'-イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2,3-エポキシプロピンの重縮合物【ビスフェノールA型エポキシ樹脂】	157.1	0.0	0.0	0.0	40.0	230	鉛及びその化合物	1,791.6	0.0	0.0	0.0	3.5
32	2-イミダゾリジンジオン	4.5	0.0	0.0	0.0	0.4	231	ニッケル	12.2	0.0	0.0	0.0	0.0	30	2-イミダゾリジンジオン	4.5	0.0	0.0	0.0	0.4	232	ニッケル化合物	5.8	0.0	0.0	0.0	0.5
40	エチルベンゼン	55.3	2.4	0.0	0.0	1.2	232	ニッケル化合物	5.8	0.0	0.0	0.0	0.5	40	エチルベンゼン	55.3	2.4	0.0	0.0	1.2	252	砒素及びその無機化合物	30.6	0.0	0.0	0.0	8.2
43	エチレングリコール	8.3	0.0	1.8	0.0	0.8	266	フェノール	375.4	2.1	0.0	0.0	21.0	43	エチレングリコール	8.3	0.0	1.8	0.0	0.8	269	フタル酸ジ-n-オクチル	104.4	0.0	0.0	0.0	3.6
44	エチレングリコールモノエチルエーテル	9.9	0.0	0.0	0.0	0.0	270	フタル酸ジ-n-ブチル	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	44	エチレングリコールモノエチルエーテル	9.9	0.0	0.0	0.0	0.0	272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	1,776.3	0.0	0.0	0.0	14.5
63	キシレン	250.2	12.8	0.0	0.0	5.7	273	フタル酸n-ブチル=ベンジル	6.1	6.0	0.0	0.0	0.0	63	キシレン	250.2	12.8	0.0	0.0	5.7	277	フタル酸n-ブチル=ベンジル	6.1	6.0	0.0	0.0	0.0
64	銀及びその水溶性化合物	50.8	0.0	0.0	0.0	0.0	283	フッ化水素及びその水溶性塩	5.3	0.0	0.0	0.5	4.4	64	銀及びその水溶性化合物	50.8	0.0	0.0	0.0	0.0	299	ベンゼン	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
67	クレゾール	287.4	1.6	0.0	0.0	6.3	304	ホウ素及びその化合物	4.8	0.0	0.0	0.0	0.8	67	クレゾール	287.4	1.6	0.0	0.0	6.3	312	無水フタル酸	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
108	無機シアン化合物(錯塩及びシアン酸塩を除く)	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	346	モリブデン及びその化合物	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	108	無機シアン化合物(錯塩及びシアン酸塩を除く)	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	346	モリブデン及びその化合物	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
115	N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルファアミド	11.0	0.0	0.0	0.0	1.4	その他60物質	11.5	0.2	0.0	0.0	2.7	115	N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルファアミド	11.0	0.0	0.0	0.0	1.4	総計	5,484.0	89.1	1.8	0.5	132.2		
120	3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン	3.5	0.0	0.0	0.0	0.4							120	3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン	3.5	0.0	0.0	0.0	0.4								
172	N,N-ジメチルホルムアミド	119.4	5.0	0.0	0.0	3.6							172	N,N-ジメチルホルムアミド	119.4	5.0	0.0	0.0	3.6								
197	デカブロモジフェニルエーテル	5.2	0.0	0.0	0.0	0.2							197	デカブロモジフェニルエーテル	5.2	0.0	0.0	0.0	0.2								

(単位: t)

### 製品におけるアスベスト使用

当社グループの製品におけるアスベスト含有製品は、1991年以前に製造していたことを現時点で確認していますが、いずれも非飛散性でかつ非摺動部での使用であり、また限られた用途向けの製品であるため、通常の状態では飛散する可能性はありません。

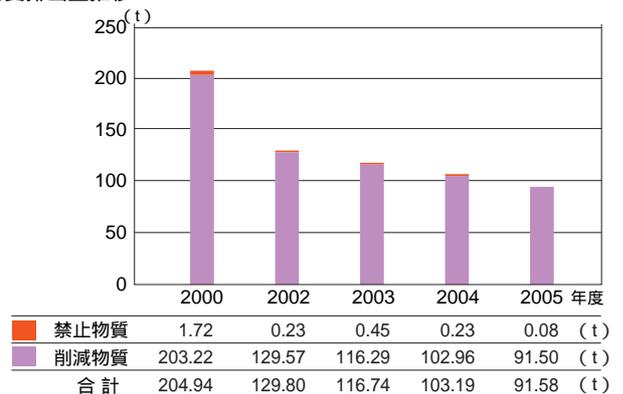
### 化学物質排出量削減

日立電線グループ全体では、44の物質について2005年度は「削減物質」排出量を2000年度比70%に削減する「禁止物質」の排出量を年度内に「0」にするの2つの目標を掲げて化学物質の排出量の削減に取り組み、いずれの目標も達成しました。

2000年度「削減物質」排出量 = 203トン(100%)

2005年度「削減物質」排出量 = 91トン(45%)

化学物質排出量推移



注) 小数点以下2桁目で四捨五入した値を表示しました。



### 化学物質の管理

当社では、製品含有化学物質に関し15物質<sup>1</sup>について使用を禁止し<sup>2</sup>、10物質<sup>3</sup>について購入材料、出荷製品の含有量を把握・管理しています。これらのデータを集約、データベース化し、社内の情報の共有・管理を行うとともに、入荷品、出荷品のトレーサビリティができるようにするため『製品化学物質管理システム』を構築しました。

1 禁止物質(15物質)

カドミウム 六価クロム 鉛 水銀 TBTO TBT・TPT PBB PBDE PCB  
ポリ塩化ナフタレン 短鎖型塩化パラフィン アスベスト アゾ染料・顔料  
オゾン層破壊物質 放射性物質

2 次の1)~3)の場合を除きます。

- 1) 法規制による濃度以下の不純物の場合
- 2) 法規制で適用除外の場合
- 3) 顧客要求でかつ明確に法規制に抵触しない場合

3 含有量を把握・管理する物質(10物質)

アンチモン ヒ素 ベリリウム ビスマス ニッケル セレン マグネシウム  
臭素系難燃剤 PVC フタル酸エステル

### RoHS指令への対応

日立電線グループでは、本年7月より施行されるEU(欧州連合)の有害物質規制(RoHS指令)への対応として、該当製品の規制適合化(製品に禁止物質を含まない)を終了しています。

### 『製品化学物質管理システム』の概要

製品化学物質管理システムの構成概要を下図に示します。

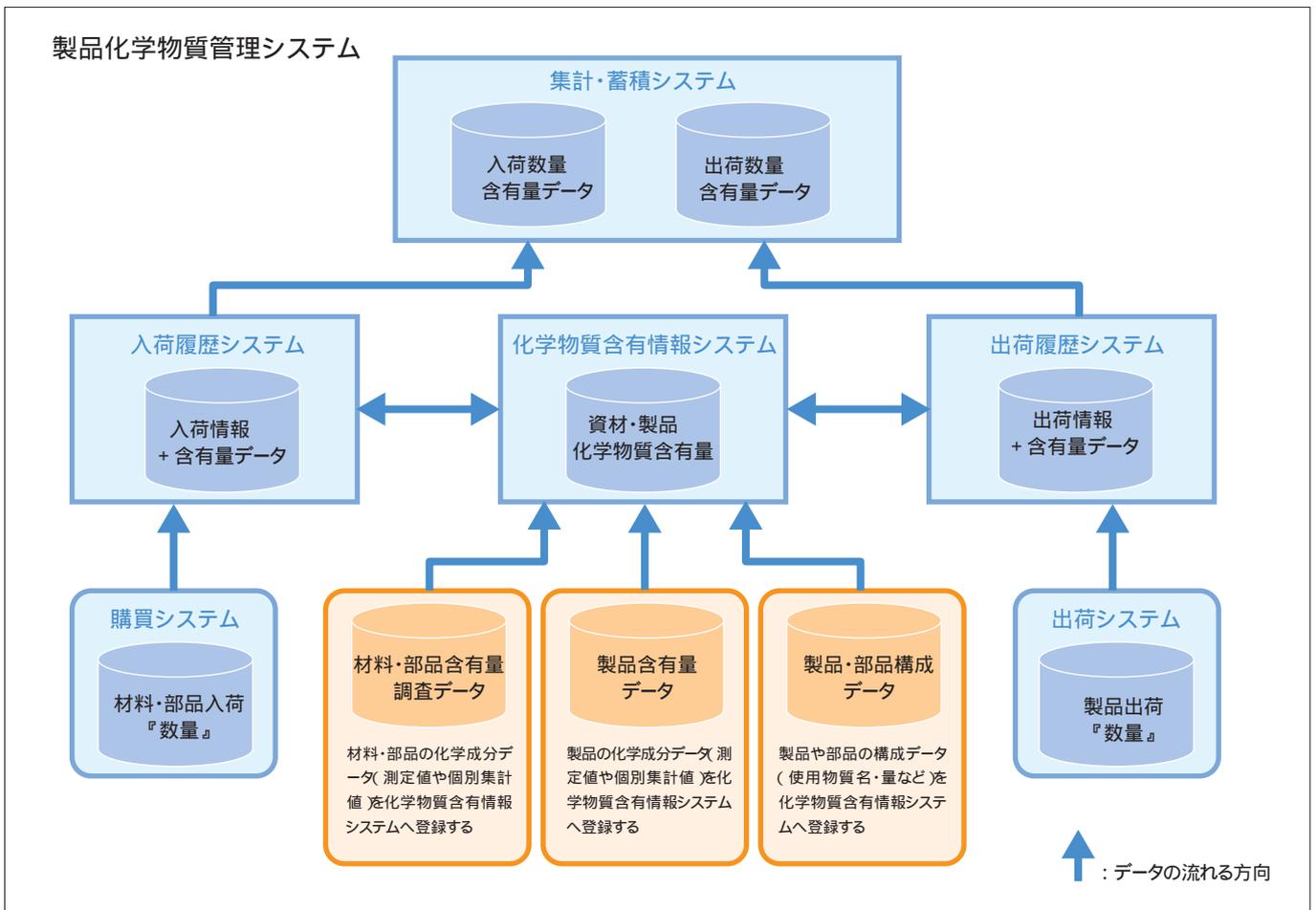
集計・蓄積システムは、化学物質に関する社内共有データベースです。化学物質含有情報システムは、あらかじめ登録した材料・部品・製品データを使用して、製品の化学物質含有状況をシミュレーションすることができます。

ある製品についてシミュレーションすると、当該製品の含有化学物質を各部位・部品レベルで表示し、製品の含有化学物質に関する品質を確認することができます。

設計部門・品質保証部門は、全製品をシミュレーションすることにより、製品が各種の環境基準に抵触しないことを確認することができます。またシミュレーション結果は、データベースとして保存します。

入荷履歴システムは、日単位で購買システムの購買実績データと化学物質含有データを突合せ、入荷化学物質データを作成し集計・蓄積システムに保存します。

出荷履歴システムは、日単位で出荷システムのデータと化学物質含有データを突合せ、出荷化学物質データを作成し集計・蓄積システムに保存します。





### 原材料・部品のグリーン調達

環境負荷の少ない製品をお客様に提供するために、原材料・部品等を購入する段階から環境負荷の出来るだけ少ない商品を購入するグリーン調達を推進しています。グリーン調達推進にあたっては省資源性・リサイクル性など当社が注目する環境保全に関する項目の向上を調達先をお願いしています。あわせて、これらの項目を含め当社の方針を調達部門が直接伝える説明会を定期的開催し、調達先の理解と協力をいただくことをはかっています。

#### 【調達品の環境保全に関する項目】

- 省資源性
- 省エネルギー性
- リサイクル性
- 梱包材の削減状況
- 環境に関する情報提供の状況

### グリーンサプライヤー

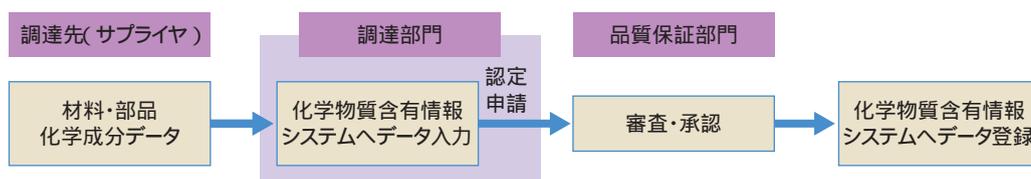
積極的に環境保全活動に取り組む調達先と環境パートナーとしての関係を築くためにグリーンサプライヤー認定制度を推進しています。この制度は、調達先に環境負荷低減や環境配慮製品開発を推進するよう働きかけと、ISO4001マネジメントシステムの認証取得またはそれに代わる環境認証制度の取得を進めていただき、取得した調達先をグリーンサプライヤーとして認定するというものです。主要調達先のうち、認証取得をした調達先の割合をグリーンサプライヤー率と定義し、2005年度から活動を推進しました。主要調達先として挙げた183社のうち、2005年度に認証取得した調達先と、既に認証取得済みの調達先とをあわせ160社をグリーンサプライヤーとして認定、グリーンサプライヤー率は87%になりました。2006年度中には100%を達成するよう引き続き調達先への要請を行ってまいります。

エコステージ、エコアクション21、KES、HI-KES（KES認証取得後に環境経営ノウハウを伝えるHiGreenセミナーを受講することによって登録する日立グループ環境認証制度）など

### 環境調達品

当社が調達する調達品すべてについて、含有化学物質の組成を把握・確認し、規制やお客様の要求を満足していることを審査・承認したものを購入することができる調達品認定システムを構築しています。認定は、調達部門が『製品化学物質管理システム』に調達品化学物質組成を入力した時点で品質保証部門の責任者が行います。この認定を受けた調達品を「環境調達品」と称し、認定を受けていない原材料・部品を購入することができない仕組みを構築しています。

#### 環境調達品認定フロー

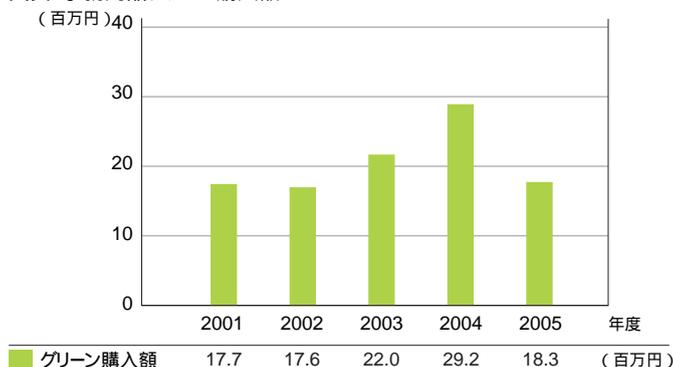


サプライヤー説明会(電線工場)

### 文具・事務用品のグリーン購入

文具・事務用品について、エコマーク付製品や再生材料使用製品などの環境負荷の少ない製品を購入するグリーン購入を推進しています。複写用紙やボールペン、ファイル、プリンタ用トナーなど他品目にわたり実施、2005年度の購入金額は、18百万円でした。

#### 文具・事務用品グリーン購入額





電線工場

大気

項目	設備	規制値	自主管理値	実測値(最大)
NOx(ppm)	ボイラ 温水ボイラ	180	160~180	117.1
SOx(Nm <sup>3</sup> /h)		0.94	0.32~0.40	0.065
ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )		0.30	0.20~0.30	0.094

水質 排出先: 河川

項目	規制値	条例	自主管理値	実測値(最大)
シアン(mg/L)	1	-	0.5	0.05
セレン(mg/L)	0.1	-	0.05	0.04
フッ素(mg/L)	15	8	4	3.3
PH	5.8~8.6	-	6.0~8.4	6.9~8.4
BOD(mg/L)	160	40	20	10
SS(mg/L)	200	65	32.5	ND
油(mg/L)	5	-	2.5	ND

CO<sub>2</sub> / 廃棄物

項目	量(トン)	
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	32,758	
廃棄物	発生量(有価物を含む)	3,809
	最終処分量	91

PRTR物質届出状況

第一種指定化学物質の名称	排出量(トン)	移動量(トン)
アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.0	0.6
2-イミダゾリジチオン	0.0	0.2
キシレン	2.9	0.2
銀及びその水溶性化合物	0.0	0.0
無機シアン化合物(錯塩及びシアン酸塩を除く)	0.0	0.0
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルファアミド	0.0	0.2
3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン	0.0	0.3
トルエン	19.9	0.1
ニッケル	0.0	0.0
ニッケル化合物	0.0	0.0
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.0	1.4

豊浦工場

大気

項目	設備	規制値	自主管理値	実測値(最大)
NOx(ppm)	ボイラ 金属溶解炉	180~260	71~117	71
SOx(Nm <sup>3</sup> /h)		0.718~5.69	0.04~0.46	0.04
ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )		0.2~0.3	0.03~0.09	0.006

水質 排出先: 河川

項目	規制値	条例	自主管理値	実測値(最大)
ホウ素(mg/L)	10	-	8	0.061
アンモニア類(mg/L)	100	-	80	0.9
PH	5.8~8.6	-	6.0~8.4	7.3~8.0
BOD(mg/L)	160	25	12	7.1
SS(mg/L)	200	40	12	8.7
油(mg/L)	5	-	3	<0.1

CO<sub>2</sub> / 廃棄物

項目	量(トン)	
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	52,486	
廃棄物	発生量(有価物を含む)	6,957
	最終処分量	1.6

PRTR物質届出状況

第一種指定化学物質の名称	排出量(トン)	移動量(トン)
エチルベンゼン	1.0	1.1
キシレン	2.5	4.6
銀及びその水溶性化合物	0.0	0.0
クレゾール	1.4	6.3
N,N-ジメチルホルムアミド	5.0	3.6
1,3,5-トリメチルベンゼン	0.8	0.9
鉛及びその化合物	0.0	0.0
フェノール	1.9	21.0
モリブデン及びその化合物	0.0	0.0

日高工場

大気

項目	設備	規制値	自主管理値	実測値(最大)
NOx(ppm)	ボイラ 金属溶解炉	180	130~160	120
SOx(Nm <sup>3</sup> /h)		2.65~5.18	0.06~0.28	0.08
ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )		0.2~0.3	0.10~0.26	0.06

水質 排出先: 河川

項目	規制値	条例	自主管理値	実測値(最大)
鉛(mg/L)	0.1	-	0.08	0.03
アンモニア類(mg/L)	100	-	80	2.2
PH	5.8~8.6	-	6.1~8.3	7.2~8.0
BOD(mg/L)	160	25	20	5
SS(mg/L)	200	40	32	7
油(mg/L)	5	-	4	1.1

CO<sub>2</sub> / 廃棄物

項目	量(トン)	
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	77,453	
廃棄物	発生量(有価物を含む)	10,799
	最終処分量	424

PRTR物質届出状況

第一種指定化学物質の名称	排出量(トン)	移動量(トン)
アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.0	1.1
アンチモン及びその化合物	0.0	4.8
ビスフェノールA	0.0	0.1
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	0.0	4.0
2-イミダゾリジチオン	0.0	0.1
キシレン	0.3	0.2
デカブロモジフェニルエーテル	0.0	0.2
テトラヒドロメチル無水フタル酸	0.0	0.0
トルエン	2.8	0.7
鉛及びその化合物	0.0	1.7
ニッケル化合物	0.0	0.1
フタル酸ジ-n-オクチル	0.0	3.7
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.0	4.6
ホウ素及びその化合物	0.0	0.0
無水フタル酸	0.0	0.0

## 高砂工場

### 大気

項目	設備	規制値	自主管理値	実測値(最大)
NOx(ppm)	ボイラ 冷温水発生器 水素発生装置	150~180	60~160	130
SOx(Nm <sup>3</sup> /h)		0.14~1.95	0.08~0.62	0.05
ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )		0.10~0.30	0.01~0.11	0.04

### 水質 排出先: 河川

注:SOxはボイラのみ該当。

項目	規制値	条例	自主管理値	実測値(最大)
PH	5.8~8.6	-	6.1~8.3	7.9~8.2
BOD(mg/L)	160	25	20	4
SS(mg/L)	200	40	32	6
油(mg/L)	5	-	4	0

### CO<sub>2</sub>/廃棄物

項目	量(トン)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	統合組織として 日高工場に含む
廃棄物 発生量(有価物を含む)	
最終処分量	

### PRTR物質届出状況

第一種指定化学物質の名称	排出量(トン)	移動量(トン)
アンチモン及びその化合物	0.0	0.0
ビスフェノールA	0.0	0.0
トルエン	0.0	0.0
鉛及びその化合物	0.0	0.0
砒素及びその無機化合物	0.0	4.8
フタル酸ジ-n-オクチル	0.0	0.0
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.0	0.7
フッ化水素及びその水溶性塩	0.0	4.9
ホウ素及びその化合物	0.0	0.7

## 土浦工場

### 大気

項目	設備	規制値	自主管理値	実測値(最大)
NOx(ppm)	ボイラ 金属加熱炉 金属溶解炉	180~200	80~190	89
SOx(Nm <sup>3</sup> /h)		0.26~12.5	0.01~0.26	0.03
ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )		0.1~0.3	0.1~0.2	0.09

### 水質 排出先: 河川

項目	規制値	条例	自主管理値	実測値(最大)
ホウ素(mg/L)	10	-	8	<0.1
フッ素(mg/L)	8	0.5	0.4	0.1
アンモニア類(mg/L)	100	-	80	2.37
PH	5.8~8.6	6.0~8.6	6.0~8.4	7.4~8.3
BOD(mg/L)	160	10	8	8.6
SS(mg/L)	200	15	12	6.4
油(mg/L)	5	3	2.4	0.8
窒素(mg/L)	120	8	6.4	3.2
リン(mg/L)	16	0.5	0.4	0.39

### CO<sub>2</sub>/廃棄物

項目	量(トン)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	75,556
廃棄物 発生量(有価物を含む)	7,372
最終処分量	4.7

### PRTR物質届出状況

第一種指定化学物質の名称	排出量(トン)	移動量(トン)
エチレングリコール	1.8	0.6
キシレン	0.1	0.5
銀及びその水溶性化合物	0.0	0.0
銅水溶性塩	0.0	0.9
トルエン	0.0	0.0
ニッケル	0.0	0.0
ニッケル化合物	0.0	0.4

## 三沢工場

### 水質 排出先: 河川

項目	規制値	条例	自主管理値	実測値(最大)
シアン(mg/L)	1	-	0.8	0.1
ホウ素(mg/L)	10	-	8	0.53
フッ素(mg/L)	8	-	6.4	0.45
アンモニア類(mg/L)	100	-	80	21
PH	5.8~8.6	6.0~8.0	6.3~7.7	6.5~7.2
BOD(mg/L)	160	20	16	9
SS(mg/L)	200	30	24	1
油(mg/L)	5	-	4	0

### CO<sub>2</sub>/廃棄物

項目	量(トン)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	統合組織として 日高工場に含む
廃棄物 発生量(有価物を含む)	
最終処分量	

### PRTR物質届出状況

第一種指定化学物質の名称	排出量(トン)	移動量(トン)
鉛及びその化合物	0.0	0.0

## 日立アロイ(株)騎西工場

### 大気

項目	設備	規制値	自主管理値	実測値(最大)
NOx(ppm)	金属加熱炉 金属溶解炉	180	144	32
SOx(Nm <sup>3</sup> /h)		2.96	2.37	0.1
ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )		0.1~0.2	0.08~0.16	0.013

### 水質 排出先: 河川

注:金属溶解炉は、ばいじんのみ該当。

項目	規制値	条例	自主管理値	実測値(最大)
鉛(mg/L)	0.1	0.1	0.08	0.02
PH	5.8~8.6	5.8~8.6	6.0~8.4	7.5~8.2
BOD(mg/L)	160	25	20	7
SS(mg/L)	200	60	48	23
油(mg/L)	5	5	4	1

### CO<sub>2</sub>/廃棄物

項目	量(トン)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	12,068
廃棄物 発生量(有価物を含む)	1,148
最終処分量	0

### PRTR物質届出状況

第一種指定化学物質の名称	排出量(トン)	移動量(トン)
鉛及びその化合物	0	0



東北ゴム(株)本社工場

大気

項目	設備	規制値	自主管理値	実測値(最大)
NOx(ppm)	ボイラ 熱媒ボイラ	130~150	130~150	44
SOx(Nm <sup>3</sup> /h)		0.34~0.52	0.34~0.52	0.025
ばいじん(g/Nm <sup>3</sup> )		0.10~0.15	0.10~0.15	0.018

水質 排出先: 海域

項目	規制値	条例	自主管理値	実測値(最大)
PH	5.9~9.0	5.8~8.6	6.0~8.4	6.2~7.1
COD(mg/L)	160	20	18	10.3
SS(mg/L)	200	20	18	13
油(mg/L)	5	3	2.8	ND

CO<sub>2</sub>/廃棄物

項目	量(トン)	
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	4,369	
廃棄物	発生量(有価物を含む)	538
	最終処分量	170

PRTR物質届出状況

第一種指定化学物質の名称	排出量(トン)	移動量(トン)
キシレン	4.1	0
N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	0	1.0
チウラム	0	0.1
トルエン	27.0	1.6
フタル酸ジ-n-ブチル	0	0.9
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0	2.9

日立ケーブルプレジジョン(株)本社工場

CO<sub>2</sub>/廃棄物

項目	量(トン)	
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	1,425	
廃棄物	発生量(有価物を含む)	1,592
	最終処分量	21

ヒタチケーブル・ジョホール社

CO<sub>2</sub>/水の使用量

項目	量(トン)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	16,543
水の使用量	63,000

ヒタチケーブル・アジアパシフィック社

CO<sub>2</sub>/水の使用量

項目	量(トン)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	8,821
水の使用量	41,213

東日京三電線(株)石岡事業所

CO<sub>2</sub>/廃棄物

項目	量(トン)	
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	11,058	
廃棄物	発生量(有価物を含む)	3,925
	最終処分量	363

PRTR物質

第一種指定化学物質の名称	排出量(トン)	移動量(トン)
アンチモン及びその化合物	0	0.1
キシレン	0	0
鉛及びその化合物	0	1.9
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0	5.2

東日京三電線(株)藤代事業所

CO<sub>2</sub>/廃棄物

項目	量(トン)	
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	845	
廃棄物	発生量(有価物を含む)	石岡事業所に含む
	最終処分量	

日立電線ロジテック(株)東海事業所

PRTR物質届出状況

第一種指定化学物質の名称	排出量(トン)	移動量(トン)
2-アミノエタノール	0	0

華南電線加工有限公司

CO<sub>2</sub>/水の使用量

項目	量(トン)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	1,517
水の使用量	94,773

PHCP社

CO<sub>2</sub>/水の使用量

項目	量(トン)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	3,348
水の使用量	291,431

上海日立電線有限公司

CO<sub>2</sub>/水の使用量

項目	量(トン)
エネルギー起源CO <sub>2</sub> 排出量	15,311
水の使用量	92,380